

光といのち

第132号

—秋彼岸—

2021年9月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメール info@syozenji.or.jp

URL http://syozenji.or.jp/

住職 釋孝昌

念仏の者は

人中の妙好人なり

善導大師

蓮の花が

咲きました！

蓮は、朝の陽光が当たらないと花芽が付きにくく山に囲まれた当寺境内では難しいと諦めていました。が、陽光が一番先に射す場所に鉢を移動しリン酸を多く含む肥料を与えたら、今年も三つも蕾が付き見事に開花しました。



蓮華は、仏教を象徴する花です。しばしば經典に取り上げられ仏具などの造形に用いられたり絵画として描かれます。

蓮華は、「淤泥華」とも言われ、泥の中に根を張り泥に染まらない清らかな花を咲かせます。このことは、煩惱だらけの凡夫に清浄な世界（浄土）が開かれる、私たちの教えに相似しています。「高原の陸地には、蓮華を生ぜず。卑湿の淤泥に、いまし蓮華を生ず」という喩えもあります。

蓮華の中でも白蓮華は、『観経』や『正信偈』では「分陀利華」と呼ばれ、本願念仏の信心を獲得した人に喩えられています。この念仏の者を、題字下にあるように、善導大師は

「妙好人」と言い換えています。本願念仏を仰ぎ人生を歩む者は、白蓮華のような浄土に照らされているから「妙好人」、仏さまのような好人と表現したのでしょうか。

無欲は怠惰の基である

これは東京パラリンピック競泳女子50メートル背泳ぎで銀メダルを獲得した中学三年生の山田美幸さんが座右の銘にしていた渋沢栄一の言葉です。

生まれつき両腕がなく左右の足の長さが違う彼女の水泳人生を支えてきた言葉なのでしょう。NHKのインタビューで、なぜこの言葉をそうしてきたのかを、素直に明るい表情で語っていました。

「やはり何事も真剣に取り組むと、欲が出てくると思うんです。もつと上を目指したいとか、メダルを取りたいとか。欲が出ることは悪いことでないと思ひ、自分の欲に素直に従って全力で取り組んでいきたいという思いを込めました」と。

その時の彼女はとても魅力的

で、その純真さは「分陀利華」のようでした。

妙好人

伝統的に浄土真宗の模範的な信者をこう称します。しかし時代により妙好人像は変わるようです。

左の本に、「親鸞聖人の教えを、身をもつていただき、お念仏の道をあゆんでくださった」（「あとがき」より）二十人の先達たちが語ったお話が掲載されています。

「妙好人」という言葉は使ってありませんが、浄土真宗の信心に生きるとは、こういう人たちのことか、と頷きました。今回は、その中の山崎ヨンスンのお話しの一部分を見開きページに掲載しました。



『生命の大地に根を下ろして』^{いのち}

親鸞聖人の声を聞いた人たち』(樹心社)の初版は、一九八七年に発行されています。编者松本梶丸師は、石川県白山市にある真宗大谷派本誓寺の住職でありました。二〇〇八年に七十一歳で西帰されています。

あとがきに、「いつの頃からだったであろうか。私たちの地方で、ひたすら聴聞ひとすじをあゆんでいるおとしよりのたちの言葉が、ふと耳の底にとどまり、その言葉に不思議な力と、包まれるようなあたたかさを感じ、いつのまにか、それらの言葉によって、あゆまされている自分に気づいたのは……。

(略)自分が教化しなければならぬと思っていた真宗門徒の中に、私よりはるかに深く、私にはるかに先だって、親鸞聖人の教えを、身をもっていただき、お念仏の道をあゆんでくださったいた先達たちが、ゆくりなくも私の前に現われてくださったのである。そうした方がたの、人間の知恵に汚されないう承の言葉は、至純な魂の結晶となっていて、なんと生き生きと、この私によびかけてくれたことであろうか。」と親鸞聖人の声を聞いた方々のことが記さ

れています。

今回は、山崎ヨンスさんの「三悪道がウラのおり場所や」からの抜粋を掲載しました。

「三悪道」は、地獄道・餓鬼道・畜生道のことです。地獄道は傷つけ殺し合生る世界、餓鬼道は貪りイライラ生る世界、畜生道は主体性を奪われて卑屈に生る世界です。

山崎ヨンスさんは七十歳、聾^{ろうあ}の障害をもった娘さんと二人ぐらしだ。今日までの歩

みは言葉ではつくせない苦闘の連続だった。今もそれは少しもかわることはない。「自分の境界からみりや、三悪道はなしていくとかねえけど、いままでや、三悪道におるこたやりきれんと逃げておったけど、もう三悪道がウラのおり場所やということだきやはつきりしたわ」とヨンスさんはおっしゃる。

※「地獄は一定」に立った自信である。人間の構築した自信ではない。光を仰いで生きる自信である。ヨンスさんは、二人でひっそりと都会の片すみで生きている。だが、私の訪ねたその片すみは、深い安らぎと温かさにつつまれていた。

※「いずれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定すみかぞかし」、「歎異抄」にある親鸞聖人の言葉。

金銭は邪見をつのらせる材料や、これほどこあいもんはない

ほんとに、仏さんの眼でこの世の中みると、外見は結構な世の中やけど、心の根のくさったこといや、これ以上の哀れな時代ないわ。いうてみりやみんな金やろ。親死んだ、女房死んだ、子ども死んだというて、金、要求するもんばかりや。死ということ感ずる人、だれもおらんがね。自分もまたこんなふうで死んでいかんならんがや、そういう人生ってなんやろと、問いかえされることなんもないね。生も死も、人間の知恵や金で解決しようとしとるだけや。ほんとうに大事なこた金銭で解決つくかいね。金銭は邪見をつのらす材料やわね。これほどこわいもんはない。金によって人間な、どんながにもかわっていくがやさけ。

人間の知恵というたつて所詮ははからいやろ。はからいやさけ、いつもわしやまごうとらん、わるいのはお前や、ということにおるやろ。娑婆のの苦しみや、あいてを悪いとおもうところにあるがや。そのわるとみとるわれをみるこたなけりやね。その自分をかえりみる眼とか、教えがないがやね。あつても、それをわがのはからいでみとるさけ理屈ばつかいうとらんならん。それがお育てによつてかえりみると、もうそこに、「馬鹿なこと思うとつたなあ」

というもんが自然とただかかれてね。そうすつと手あわす以外ないでしょう。この世界はつよいもんやなあとおもうわ。わたしも、本音^{ほんね}いや、いいおばあちゃんといわれたいというのぞみもつとるよ。そやけど、お育ていただかしてもらうとそういわれるような自分でないもの。のぞみをかけながらのぞみのほかのことばっかりしとるもん、叶うはずないわ。そんな浅ましい自分、見とないけど、見せられる世界やさけ、見たくなくても見えてくるわいね。「また、のぼせあがつとるぞ」とね。

不安は私のいのちやもん

われわりや、仏の仕事、われやつとると錯覚しとるがんねえか。ほんといや、われわれにや、感謝の念も、慈悲の心もないがやわね。あるもんな恥さらしだけ。人はよく「感謝せんならん」と力いれていうわね。そんなことお聖教のどこに書いてあるいね。ただかかんならん、感謝せんならん、おかげさんやと、わがおもいでいうとるもんやさけ始末つかんわね。仏さんからみりや始末ついとるがやけど、そんなこというとる人に「そんなこというとるとこに仏さまござるかなあ」というでしょう。そうすつと、自分の信に傷ついたとおもうわけやね。信

心といつても、自分でつくりあげとるさけ、壊れたり傷ついたりするがやわいね。きれいな手前勝手なところで聴いとるわけや。「ああ結構な話や」とね。聴くほうも話すほうもそんなところにおさまつとるさけ、何年聴いても聞法が生きる力になってこんがやないか。

こないだも、ある新興宗教の方がこられて、「婆ちゃん、不安ないか」とおっしゃる。「ええ、不安ありますよ」というと、その人、「不安あるでしょう。わたしら、その不安をとる会を無料ですとるさけ、婆ちゃんもそこにいって、不安とつてもろたらどうや」といわれる。「そうか、ご苦労さんやねえ。不安の世の中でねえ。そやけどこの不安、あんたらにあげてしもうたら、ウラ、なにを力に生きていったらいいがやろね。不安は私のいのちやもん。不安とられたら生きようないがんないか。ウラ、まだ死にとねえもん」というたら、その人、私の顔みて目つぶつとる。「なんしとるがや、あんた」というたら、「婆ちゃんのこと（ひたい）に光さしとるわ」といって帰っていかれた。こんなこと自慢しとるがんねえぞ、出遇うたままいうたがや。如来さまに遇うこたないど、自分のつくった迷いに苦しめられて、一生おびえたり、たてまつつたりしていかんならん。信心といつても、そんな信心しとる人ばかりでねえか。

この子がウラの犠牲になってくれたんやなあ

こんな障害（聾啞）の子どももつとると、いろんな信仰のさそいあったわね。そやけど、そんなもんには、すこしもゆるがんだね。七つ八つするときから、おじじのひぎの上で、お念仏の声きいて育つたもん。念仏がウラの財産です。いのちです。この子ができてから、これと一緒に三悪道のまん中あるいとります。いままで、こやつ（子ども）がおつたために、わりや犠牲になったといつて、この子を白い眼でみたこともあつたよ。あつたけれども、これ（子ども）がウラを迷いつづけさせて、ウラをここ（お念仏の世界）にたたせてくれたんや。この子がウラの犠牲になってくれたんやなあ、いまやつと手の合わん中に手をわしとるんや。この子の腹の中わらんけど、外にすることは八分どおり教えられとるわ。学校も全然出とらんし、ウラなにも教えたこたないけど、ウラ以上に大事なこと、ちゃんど知つとる。そういう子を、ウラが親面^{おやづら}して見おろしとるこたようあるがや。ほんとに浅ましい邪見なもんや。そやけど、邪見とつたら、なんもないのでしょう。またとる必要もないしね。これ、とつたら道ひらけんもん。邪見は浄土へ行く道の道路工事のようなもんや。

9月23日(木)

秋分の日

10時～11時30分

秋彼岸会

お勤めは、正信偈などを
同朋唱和します。
法話は、「仏さまは、な
ぜ蓮華の上におられるの
か」という講題で、住職が
お話しいたします。

ユーチューブ限定公開で
配信しますので、メールで
参詣の申込みをしてくださ
い。URLを送ります。本
堂での参詣も20人程度まで
可能です。

※毎年秋彼岸に護持金を
お納めの方、本堂で受け付
けます。郵送等でも大丈夫
です。

千葉組主催 ズーム親鸞教室

三人の講師が「浄土真宗
の信心」について法話しま
す。法話聴聞後に座談会を
予定しています。

市野智行先生

9月13日(月)
10月18日(月)

百々海真先生

12月22日(水)
1月21日(金)

酒井義一先生

4月5日(火)
5月16日(月)

時間 13時～16時
参加費 1000円

※勝善寺かご自宅で参加し
てください。

昨年度の参加者にはURL
を配信します。詳細は
お問い合わせください。

仏教を聞き語り合う会

同朋の会

- 第1回 10月10日(日)
 - 第2回 2月13日(日)
 - 第3回 4月10日(日)
 - 第4回 5月8日(日)
 - 第5回 7月18日(日)
- 講師 住職
時間 14時～16時
参加費 500円
※ズームで配信します。

勝善寺聞法会

- 第1回 12月12日(日)
 - 第2回 6月26日(日)
- 講師 副住職
時間 14時～16時
参加費 500円
※ズームで配信します。

地区聞法会

- 八日講十日講 9時～11時
- 1月8日(土) 6月5日(日)
- 中佐久間講 5月17日(火) 13時半～15時半

月曜朝のお勤め

毎週月曜日6時5分～45分
正信偈などを皆さんと一緒に
お勤めします。「御文」を拝読し
た後に住職の法話があります。

報恩講に向けて

- 役員会 10月1日13時30分～
- 世話人総会 10月24日13時30分～
- 仏具磨き 11月15日13時30分～
- 報恩講準備 11月19日13時30分～
- 速夜 19日15時～
- 晨朝 20日6時過ぎ～
- 日中 20日10時～

詳細は、世話人総会後にお知ら
せします。
どうぞご予約ください。



検儀谷の池田義正氏が、排水溝
柵の蓋を寄進して下さいました。
ボロボロに傷んでいたのを見か
ねて、溶接の仕事の合間に製作な
されたということでした。
ありがとうございます。